

平成 29 年度 外部及び内部学校評価

年間評価

平成 30 年 2 月

アンケート集計と達成目標数値に基づく評価

- 1 学校運営の充実
- 2 学習指導の充実
- 3 進路指導の充実
- 4 生徒指導の徹底
- 5 教育環境の整備
- 6 部活動の充実と振興

福島県立喜多方東高等学校

平成 29 年度 外部及び内部学校評価の集計結果 (2月)

●年間学校教育評価票(アンケート)集計対象と回収状況

アンケート対象	対象人数	配付数	回収数	回収率	備 考
生 徒	289	288	284	98.6%	中間 100%
保護者	289	289	120	41.5%	〃 46.7%
教職員	23	23	23	100%	〃 95.7%

●年間評価

★ 1 学校運営の充実 重点目標 4：信頼される学校づくり

◇アンケート評価：【総合=4.0】 (中間評価=4.1) (アンケート項目番号 年間評価 中間評価)

- ・学校運営の充実に努める。…………… (教員 1 3 4.1 4.1)
- ・PTA や地域との連携強化に努める。…………… (教員 1 4 3.6 4.1)
- ・不祥事防止に努める。…………… (教員 1 6 4.4 4.3)
- ・学校は、教育目標や教育方針をわかりやすく伝えてくれる。…………… (保護者 1 3.9 3.9)
- ・本校の PTA 活動は活発である。…………… (保護者 5 3.9 3.9)

◇総評：学校運営については、年間の活動が円滑に進むよう学校全体で P D C A を行い運営にあたってきた。また、服務倫理委員会を開催し、事例をもとに研修会を開き自覚を持ち行動できるよう職員一丸となって不祥事防止に努めることができた。

P T A 活動については、朝のあいさつ運動や夏休み中の祭礼補導、花植え作業、除草作業、進路学習会、学校の様子を記事にした広報誌づくりなどの活動をした。今年度は大文化祭(すずかけ祭)もあり学校と保護者、更には地域の方々との交流、連携も活発にすることができた。今後も更に学校活動が円滑に進むよう努力したい。

★ 2 学習指導の充実 重点目標 1：基礎学力の向上・学習習慣の定着

◇アンケート評価：【総合=3.9】 (中間評価=3.9) (アンケート項目番号 年間評価 中間評価)

- ・わかりやすい授業の実践に努める。…………… (教員 1 4.2 4.2)
- ・基礎力テストと週末課題を通して、基礎学力の向上に努める。…………… (教員 2 3.5 3.8)
- ・課題等を工夫し、家庭学習の習慣化に努める。…………… (教員 3 3.2 3.4)
- ・定期的な研修や授業評価により教科指導力の向上に努める。…………… (教員 4 3.9 3.5)
- ・授業はわかりやすく充実している。…………… (生徒 3 3.8 3.8)
- ・授業には真剣に取り組んでいる。…………… (生徒 9 4.1 4.2)
- ・朝の読書にきちんと取り組んでいる。…………… (生徒 10 4.2 4.3)
- ・子どもは学習活動に意欲的に取り組んでいる。…………… (保護者 9 3.9 3.8)

◇総評：学習指導の充実に関して、教員のアンケート項目「わかりやすい授業の実践」は 4.2 と高評価であり、生徒のアンケート項目「授業がわかりやすく充実している」も、教員による自己評価と比べて低くはあるが、3.8 とまずまずの結果が得られた。教員アンケートの「定期的な研修による教科

指導力の向上」が 3.9 と中間評価比+0.4 の改善が見られているが、生徒の基礎学力の向上に最も影響のある授業の充実という部分において、引き続き努力していく必要がある。

アンケート項目で低評価となったのが「家庭学習の習慣化」で 3.2 の評価結果であった。授業同様に基礎学力の向上に欠かせない家庭学習が本校生は十分ではないということがこの結果から読み取れる。2 学期中間考査中に実施した家庭学習時間調査においても、午前中で放課となる考査中でさえ家庭での学習時間が 30 分未満という生徒が全校で 50 人に達する結果であった。普段、家庭学習の習慣のない生徒は、考査のために早く帰宅できても、その時間を学習時間に充てていないということである。家庭での学習習慣は小中学校時代から身に付いてきているものであるため、簡単には変わらない部分もあると思われるが、まずは生徒の意識を「週末課題を学校でやる」から「家庭に持ち帰り机に向かってやる」方向に変えていきたい。それが「家庭学習の習慣化」、さらには「基礎学力の向上」につながるのではないかと考えられる。

基礎・基本の学習に力を入れる本校では、基礎学力に関して学校独自に実施する「漢字」「計算」「英単語」の 3 分野からなる「基礎力テスト」と、1 年次から 3 年次までに合計 8 回、長期休業明けに受験する「基礎力診断テスト」を実施している。4、8 月実施の基礎力診断テストでは、学力の指標となる 3 教科平均の GTZ が 1、2 学年において向上している。特に、国語は GTZ の平均が全学年とも進路選択の可能性が広がる C ゾーンに入っており、数英においても D から C への学力向上が望まれる。

★ 3 進路指導の充実 **重点目標 2：自己実現への指導**

◇アンケート評価：【総合=3.9】（中間評価=3.8）	(アンケート項目番号)	年間評価	中間評価
・ 3 年間を見通したキャリア教育の推進に努める。……………	(教員 5)	3.9	3.4
・ 個に応じた進路指導の充実に努める。……………	(教員 6)	4.1	4.1
・ 「進路の手引き」「合格体験記」等を適切に活用するように努める。……………	(教員 7)	3.8	3.4
・ 適切な進路情報の提供に努める。……………	(教員 8)	4.1	3.8
・ 学校は進路についての情報をよく知らせてくれる。……………	(生徒 6)	4.0	4.1
・ 学校は、進路についての情報を家庭へ適切に提供してくれる。……………	(保護者 3)	3.7	3.9

◇総評：高校 3 年の進路活動は、高校入学以来の学び・成長の集大成である。実際の活動が始まるまでの計画と準備が重要であることを自覚し、用意周到に進めなければならないと考える。生徒個人の進路希望の把握、目標設定をした上で、進学・就職にかかわらず身につけさせなければならない人間性を育みつつ、進路目標達成までの一般的なプロセス、個人の進路目標を見据えた戦略的・個別的なプロセスを考えていかなければならないと考える。

進路先や就職内定率が注目されがちであるが、受験勉強や就職活動などの進路活動をとおり、人として成長できることが重要であり、高校 3 年間の学校生活の中で意欲的にかつ根気強く学ぶ姿勢、他者より良い関係を築くための言語能力、礼節、規範意識、勤勉性、奉仕の心などの広い意味でのコミュニケーション能力を備えた人間育成に向け、教職員の共通理解と連携、一貫性のある指導体制を築いていきたいと考える。

平成 29 年度卒業生については、学校・安定所紹介で就職を希望した生徒については 100% の就職率となったが、主体的に就職活動を進められない生徒もおり出願に至るまで気を揉むことも多かった。また、進路先決定後の学校生活において意欲が低下し、授業態度や出席状況の悪化が見られた。進路決定如何に関わらず、高校生としてやるべきことをしっかり理解し、何事にも真摯に取

り組む姿勢を持たせる指導も必要と感じた。

以上の点を本校進路指導上の課題とし、来年度以降、生徒の進路目標の達成と卒業後の社会人生活の基盤づくりを念頭に置き、学年、保護者、各部と協力して進路指導を展開したいと考える。特に、保護者アンケートにもあった進路情報の提供については、全体的、個別的な提供方法を検討し早急に対応したい。

★4 生徒指導の徹底 **重点目標3：道徳心の高揚**

◇アンケート評価：【総合=4.1】（中間評価=4.2）	(アンケート項目番号)	年間評価	中間評価)
・基本的な生活習慣の確立に努める。……………	(教員9)	4.2	4.3)
・規則の遵守と規範意識の向上に努める。……………	(教員10)	4.1	4.3)
・教育相談と組織的な生徒指導を充実させ、生徒の心の安定を図る。……………	(教員11)	3.8	4.0)
・学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる。……………	(生徒5)	3.8	3.8)
・時と場に応じた言葉遣いをするなど、礼儀をわきまえた行動をしている。……………	(生徒11)	4.4	4.5)
・服装や頭髪など、校則を守って学校生活を送っている。……………	(生徒12)	4.4	4.4)
・学校は、子供のことについて適切に相談に応じてくれる。……………	(保護者2)	4.0	3.9)
・学校は生徒の間違った行動について適切に指導している。……………	(保護者7)	4.1	4.1)

◇総評：今年度は特別指導件数が減少し、0件であった。高校生としての心構えや社会の一員としての自覚、規範意識等について、校内の指導体制を強化するとともに、引き続き保護者と連携した協力体制を整える必要がある。また、3件の軽微な交通事故や、駅での自転車盗難も4件と多いことから、関係機関との連携を密にした安全管理に関する指導を十分に行っていききたい。校内で他の生徒と上手くコミュニケーションを図れない生徒や、不安やストレスを適切に解消する方法を見つけれない生徒に対しては、担任・養護教諭・スクールカウンセラーが連携して指導にあたり、改善されたケースも見られた。しかし、原因が家庭環境にある場合については、多くの時間と専門的知識が必要であり、外部の専門家と協力しながら、今後も継続的な指導が必要となっていくことが予想される。基本的な生活習慣の確立と規範意識を高めるという観点から取り組んでいる遅刻指導、服装・頭髪に関する指導などには一定の効果が見られたものの、まだまだ改善すべき点が多い。今後も教職員による継続的な指導と、生徒一人一人の意識の向上が必要である。

★5 教育環境の整備

◇アンケート評価：【総合=3.9】（中間評価=3.9）	(アンケート項目番号)	年間評価	中間評価)
・安全安心、校内美化の両面から学校環境の整備に努める。……………	(教員15)	4.1	4.3)
・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。……………	(生徒7)	3.7	3.6)
・本校の施設・設備は学習環境面で満足できる。……………	(保護者4)	3.9	3.9)

◇総評：去年に引き続き、校内美化活動のための清掃用具の整備については、保健厚生部を中心に可能な限り修繕しながら使用するよう心がけた。また、校内の清掃や美化活動を委員会及び部活動の生徒に協力いただきながら行うことが出来た。また、事務部に協力をいただきながら、保健委員会・サッカー部で各学期末のモップの洗濯を行った。今後も工夫しながら実施していきたいと思う。今後の課題として、残飯の処分の仕方の工夫やごみの未分別があげられる。公共施設の利用マナーの徹

底について、清掃指導とあわせて今後も継続した指導に努めていきたい。その他、学校環境の整備については、問題点を各部署から挙げてもらい、可能な限り改善に向けて着手したい。

★6 部活動の充実と振興

◇アンケート評価：【総合=4.0】（中間評価=4.1） （アンケート項目番号 年間評価 中間評価）

- | | | | |
|----------------------------|--------|-----|------|
| ・部活動を奨励し、その活性化に努める。…………… | （教員12 | 4.0 | 4.1） |
| ・部活動に積極的に取り組んでいる。…………… | （生徒8 | 3.8 | 3.9） |
| ・子どもは積極的に部活動に取り組んでいる。…………… | （保護者10 | 4.2 | 4.3） |

◇総評：今年度の部活動削減検討において、残念ながら男子バスケット、男子バドミントン、華道部の平成30年度からの部員募集停止を決定した。生徒からは大きな反応はなく滞りなく活動が行われている。しかし、運動部においては、3年生が抜けて新チームになり、少人数で団体戦に出場することができず、活性化の面で不安がある。県大会以上の成績は、陸上競技部の女子が全国大会（日本陸連主催）、ボート部が東北大会に出場している。一方、文化部においては、1年生の部活動加入者の半分が文化部に加入しており運動部離れの傾向が見られる。予算の執行状況においても文化部の登録料、大会旅費が当初予算をオーバーし、項目間流用で対応しなければならないほどの活動実績であった。書道部は2年連続全国大会出場を果たし、音楽部は県大会でも活躍し、地元で3回目のスプリングコンサートの開催を予定している。今後、女子の比率が変わらない限りこの傾向が強まる可能性がある。部活動の抱える問題として、2月現在の部活動登録者が1年生で77%、2年生で64%と4月当初と比べて低いことが挙げられる。人間関係のトラブルや、アルバイト優先などで退部し、その後、新たな部に入部することなく過ごしている生徒をどう指導していけばよいか課題である。